

令和 7 年 3 月
伊丹市教育委員会

伊丹市 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

伊丹市では、子どもたちの We l l - b e i n g のため、今日の教室での子どもたちの学びが未来につながるよう、1 人 1 台端末を活用し様々な違いを肯定的に捉え、「ちがいを豊かさにつなげていく「カラフルな教育」の実現を目指します。

① 個別最適な学び

- ・ 子どもの特性や学びの様子に応じて、指導方法・教材などを柔軟に提供・設定する。
- ・ 子ども自らが、学びが最適となるように調整しながら学ぶ。

② 協働的な学び

- ・ 教員、子ども同士や地域の方など、多様な人との交流を通してより良い学びを生み出す。
- ・ 相手を尊重したり、異なる考えを組み合わせたり、新たな考えを作り出したりする。

③ 主体的な学び（探究的な）

- ・ 学習の中で、子どもが自己決定して学び方を選んだり、課題を解決したりする。
- ・ 子どもの自立的な学びを、先生がファシリテートする。

2. G I G A 第 1 期の総括

本市教育の情報化は令和 2 年度の G I G A スクール構想により大きく進展しました。全校で 1 人 1 台のタブレット端末と無線ネットワークが整備され、コロナ禍の中で学びを止めないツールとして活用が始まりました。その後、ICT 支援員や指導主事による伴走支援、そして教員の熱心な取り組みにより、本市においてタブレット端末は文房具として日常的に活用されています。

① 成果

伊丹市は「令和6年度全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙」においてICTの活用状況が全国平均を大幅に上回っていました。市内、小・中・特別支援学校で開催された研究発表会においても、タブレット端末を利用したグループ活動や実験動画を何度も見返しながら考察する場面が多く見受けられ、デジタルとアナログを適切に組み合わせた授業が行われていました。

また、タブレット端末導入に係る市独自のアンケート調査では、92.5%の教員が「iPadでよかった」と評価しており、次期端末もiPadを希望する声が多く寄せられました。このように定量的、定性的な両面から見ても、本市の学校におけるデジタル化は進展していると考えています。

② 課題

・ ネットワーク環境の課題

第1期GIGAスクール構想において、令和2年度に端末整備と共にネットワーク環境も整備しました。導入当初は一部の学校で通信速度の遅さが指摘されましたが、令和5年の全国学力・学習状況調査の中学校英語CBTでは問題なく対応できており、本市のネットワーク環境は概ね良好と判断していました。

しかし、令和6年4月に文部科学省が示した「学校規模ごとに1校当たりの帯域の目安(たとえば、1,000人規模の小学校で700Mbps程度)」を満たしている学校は全国で2割程度にとどまっています。本市のネットワーク調査においても、特別支援学校を除く全ての学校が推奨帯域を満たしていないことが明らかになりました。

・ タブレット端末の経年劣化に関する課題

現在使用しているタブレットは、導入から来年度で5年が経過し、経年劣化が見られるようになりました。日常的なタブレットの活用率が上昇する中で、故障等の増加も確認されています。

・ 情報セキュリティ面の課題

文部科学省は、校務DXの推進に向け、高いセキュリティを確保しながら、パブリッククラウド上で学校現場の個人情報情報を管理・運用する方向性を示しています。具体的には、令和11年度までに、次世代の校務支援システムをクラウド化し、教職員が場所に捉われない柔軟な働き方を実現することを目指しています。また、児童生徒のタブレットの利活用においてもクラウド環境が基本となることが想定されています。

しかしながら、伊丹市の教職員が利用するネットワークはオンプレミスサーバ

が基本であり、境界型セキュリティ対策を行っています。教職員と児童生徒が相互に連携しながらクラウド環境を用いてタブレットの利活用を行うには、セキュリティ対策が十分ではなく、リスクのある機能については制限を行っている状況です。

3. 1人1台端末の利活用方策

① 児童生徒1人1台端末の積極的活用

伊丹市においては児童生徒の活用状況は全国平均を上回っていることから、下記のKPIを指標とし、引き続き現在の水準を維持できるように努めます。

- ・ 年度ICT研修を受講する教員の率 100%
- ・ 情報通信技術支援員（ICT支援員）の配置 1人／4校（計7名）
- ・ 1人1台端末を週3回以上活用する学校の率 100%
- ・ デジタル教科書を実践的に活用している学校の率 令和8年度までに80%以上

② 個別最適・協働的な学びの充実

下記のKPIを指標とし、伊丹市では各学校に対してアウトリーチやオンラインによる研修などを計画的に行い、学校がICT機器を授業で活用できる基盤を構築します。

- ・ 児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率 100%
- ・ 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率 令和8年度までに80%以上
- ・ 教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率 令和8年度までに80%以上
- ・ 児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率 令和8年度までに80%以上
- ・ 児童生徒が自分の特性や理解度・進度にあわせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率 令和8年度までに80%以上

③ 学びの保障

下記のKPIを指標とし、オンライン授業環境の整備、心の健康観察の導入、タブレットに翻訳アプリの導入、入出力支援装置の更新などの施策を行っていきます。

- ・ 希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率 令和8年度までに100%
- ・ 希望する児童生徒への端末を活用した教育相談（心の健康観察）を実施している学校の率 令和8年度までに100%
- ・ 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率 令和8年度までに100%
- ・ 障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率 令和8年度までに100%

④ ネットワーク環境の更新

ネットワーク整備計画の通り、1人1台端末が十分に活用できるネットワーク環境を構築します。

⑤ タブレット端末の更新

伊丹市では1人1台端末環境を引き続き維持することを前提として、子どもたちにより快適な学習環境を提供し、故障率を低下させ教員の負担を軽減するため、端末整備・更新計画の通り、令和7年度中に全てのタブレット端末を新しい機器に更新する予定です。また、タブレット故障時においても途切れることなく、タブレットの活用が行えるように十分な予備機を整備します。

⑥ 情報セキュリティ面の対策

校務DX計画の通り、いわゆる強固なアクセス制御によるセキュリティ対策による校務セキュリティ基盤を導入し、その基盤を元に教職員と児童生徒がセキュリティを維持し安全・安心にクラウドを活用できる環境を整えます。

以上